

広沢池はひろさは大沢の巽なり、寛朝僧正くわんてうそうじやう此池をつくり給ふとなん。

風 雅 広沢の池の堤の柳かげみどりもふかく春雨ぞふる

為 家

侍従のひろさは尼広沢にこもると聞てつかはしける

後 拾 山の端に隠れなはてそ秋の月この世をだにも闇にまどはじ

藤 原 範 永

新 千 いにしへの人は汀に影たえて月のみ澄るひろさは広沢の池

源 三 位 頼 政

中秋の月見んと、都下の貴賤池の汀に臨んでよもすがら盃をめぐらし、千里を共にしてくまなき空のけしきに、月も宿かす広沢の池と詠しも、今さらに千々に物悲しく、風は緋雲を掃て浄く、露は月明に降りて寒し、謝荘は月賦を作り、庚亮は南楼に登る、和漢中秋の月を賞する事古今に変わらず。